

田舎源氏拾四



^ 13
3742
14



田舎源氏錦繪

ふせのあるところ所を追て出板仕たまたまの夜景。出来
たつた。さすの雪。五条の夕ぐれ。あまきりしふ

歌川國貞画

前北齊為一翁画 江戸島大山往來雙六

柳亭撰

先年より賣ひつゝ多し指押しゆるは板を取あつて別て紙
摺り等精密に相装中の

同翁画東海道五十三次錦繪

中奉書八ツ切り

是又佳紙をえらみ極彩色代紙入に装束しおきゆる所年五等
西のきねのてまろしきれとの程幸事なり

考訂大和詞

柳亭校

弄花翁撰

歌舞妓年代記初編拾遺

柳亭種彦編

故馬馬翁の書りたされし事どもとある古圖古画をおろくろく
見考証を引考へを附し

近刻

江戸通油町地本書林

仙鶴堂

小林喜右衛門印行



田舎源氏
第十四編 上冊
仙雀堂梓

種彦作

國貞画



十四編下

耳也
折心
幸
田舎



十四編上

種彦作

中世より後と

門へ13
號342
巻14

彦 紫田舎 原氏

種彦作 眞直 十四編 下冊

梓堂 崔仙

上の巻にハハとある篇の読ふにこづの読ありはどぞのつり
のこづしては篇のつりめと同きき 傍にせよ源の字より
とをわく 答ふと勝とまるるしをいれをいとを 又 一 説 書 我
ひらして何所篇の字めでもをえい使ける教のさしどりて
勝頁とまるるもあり 篇突 篇集ると書くる 倣字あて
篇終るるスーといふ

傍紫田舎源氏第十四編

十月の牡丹餅何ふ板置直意ハ 亥ノ喰子に喰よ昔この

揚名直意赤本作者の知る事なるねと略て筋が解む
の謎案 直意赤本作者の知る事なるねと略て筋が解む
麻呂坂を吉原の仕舞れ身あがりとも難むと



物るいのさま共作れと當る説ハ三ふりて四冊に綴
かうむふさあさまで既十四編 予 面きんあ板元ハ
あきあうの初のらる日擇と賣知とも最とあま
天保し未春

柳亭種彦



空衣

神姫の
志保の
杉の
るき
いの
いよはえそ
とねる
さうあそ



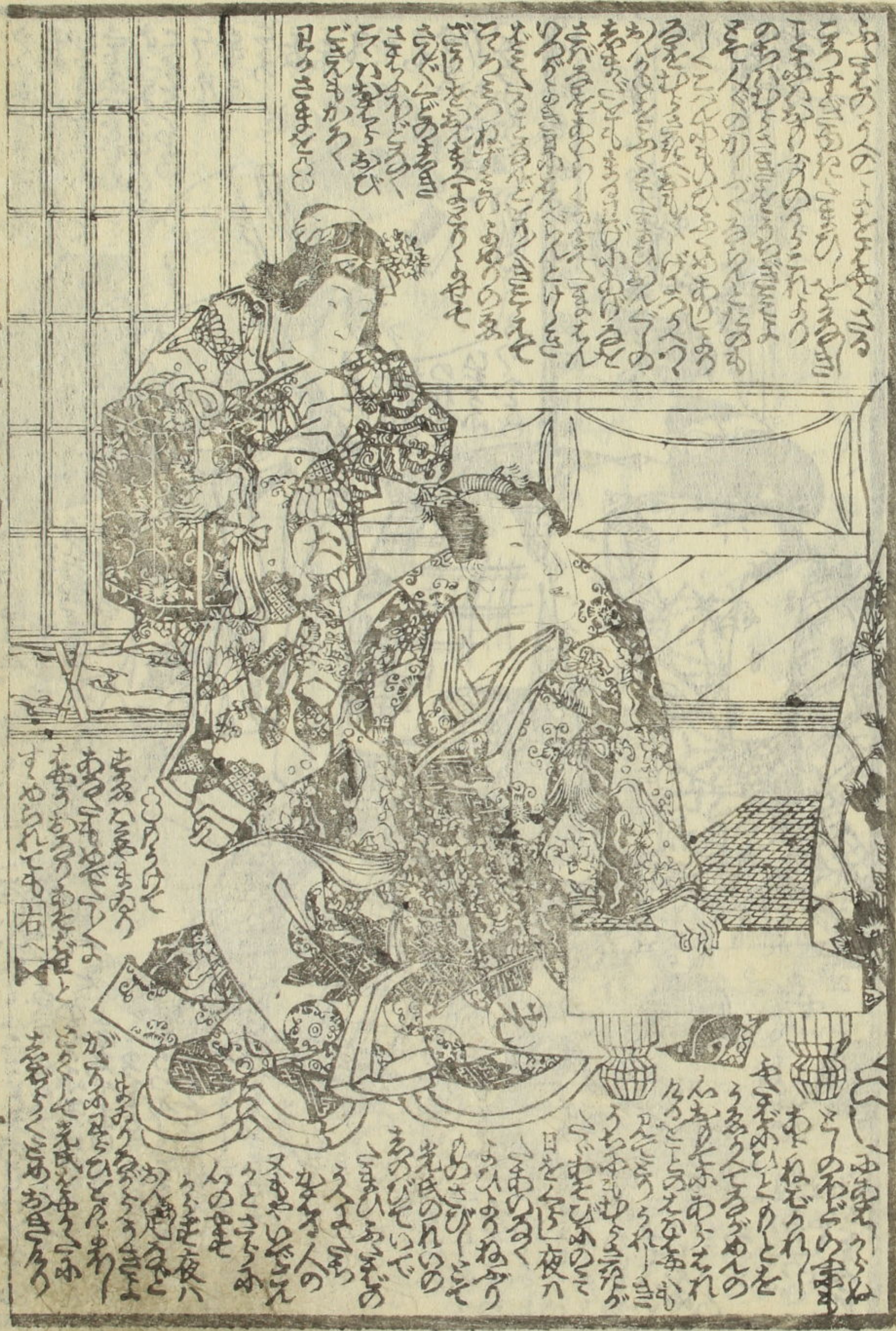
阿古木



この世は...
 父兄の...
 母の...
 かく...
 ち...
 あ...
 い...
 あ...
 い...
 あ...
 い...
 あ...
 い...

左の...
 右の...
 其...
 ...

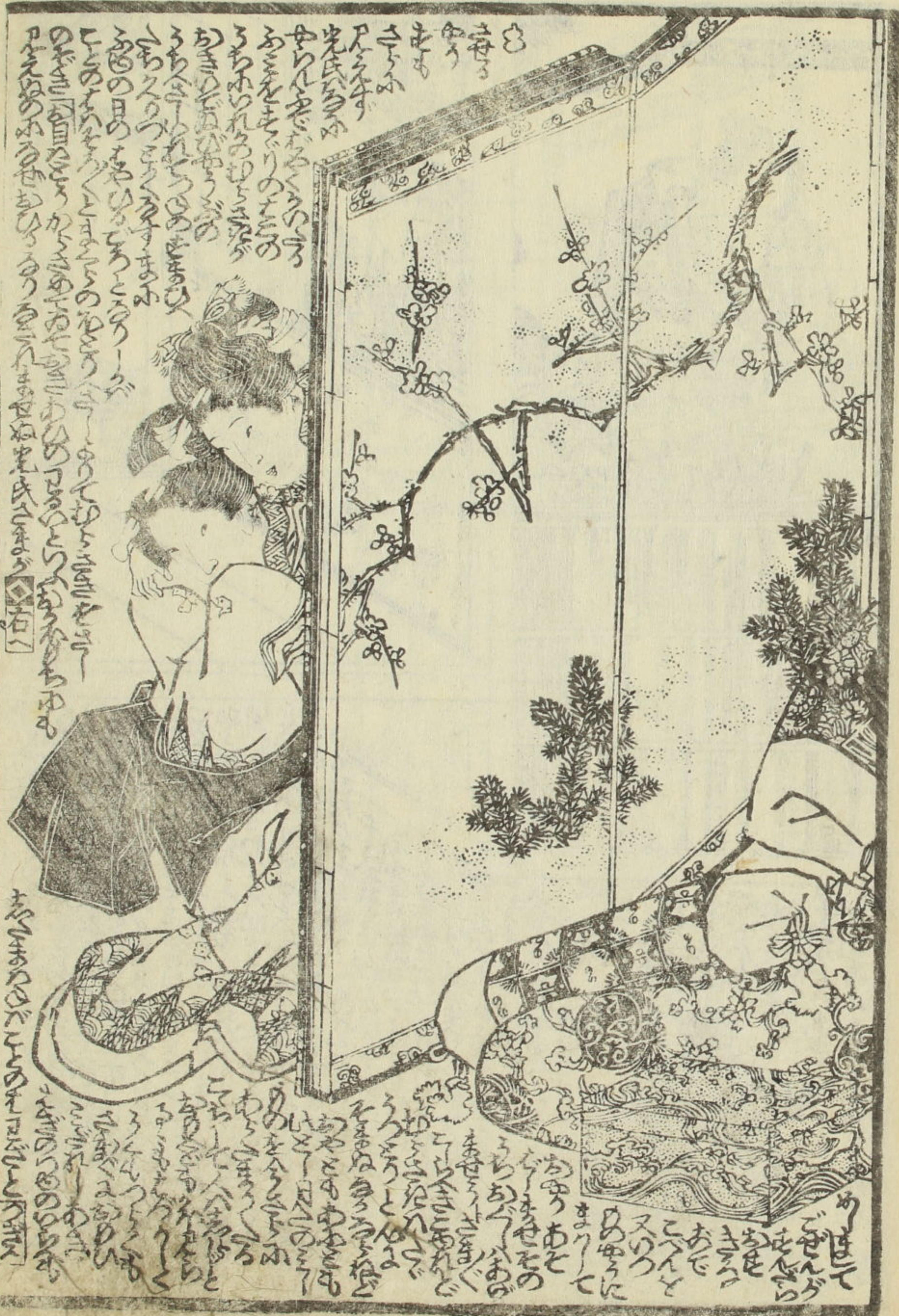
光...
 ...
 ...
 ...
 ...



この世は...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



あつちの日光は
あつちの空は
あつちの風は
あつちの雲は
あつちの鳥は
あつちの虫は
あつちの草は
あつちの木は
あつちの石は
あつちの土は
あつちの空は
あつちの地は

あつちの空は

あつちの地は

あつちの空は

あつちの地は

あつちの空は

あつちの地は

あつちの空は



あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は

あつちの空は

あつちの地は

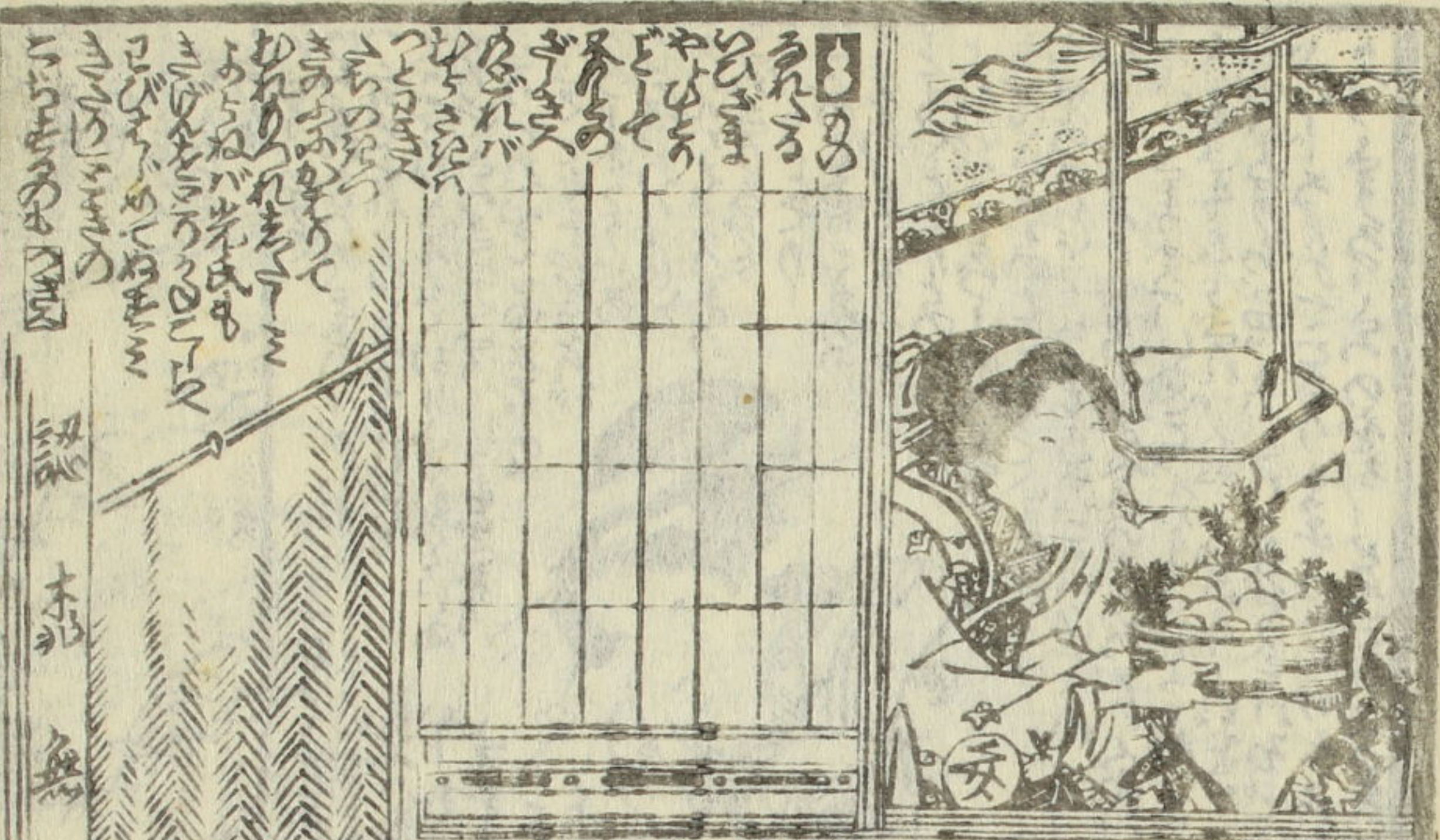
あつちの空は

あつちの地は

あつちの空は

あつちの地は

あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は
あつちの空は
あつちの地は



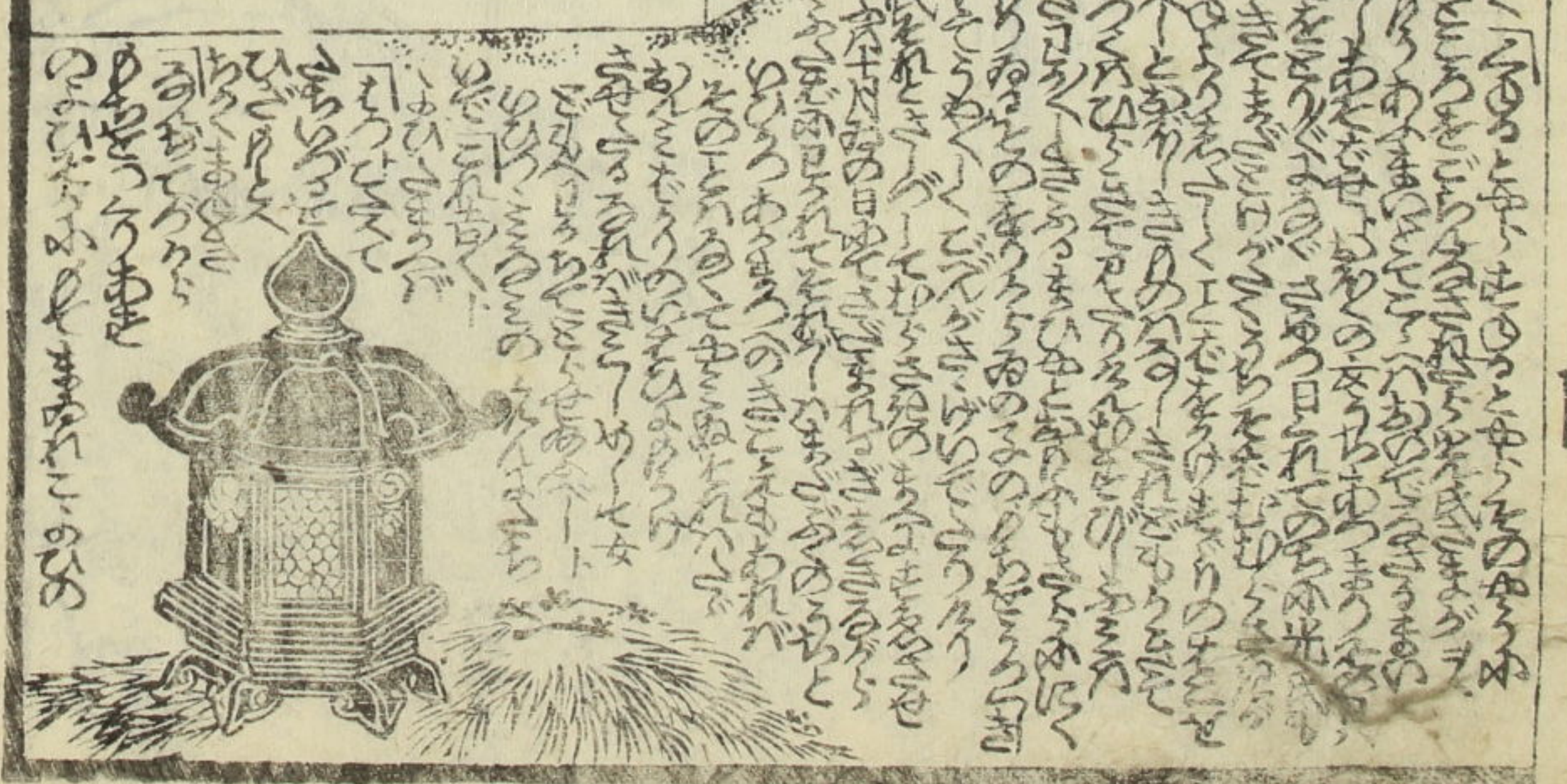
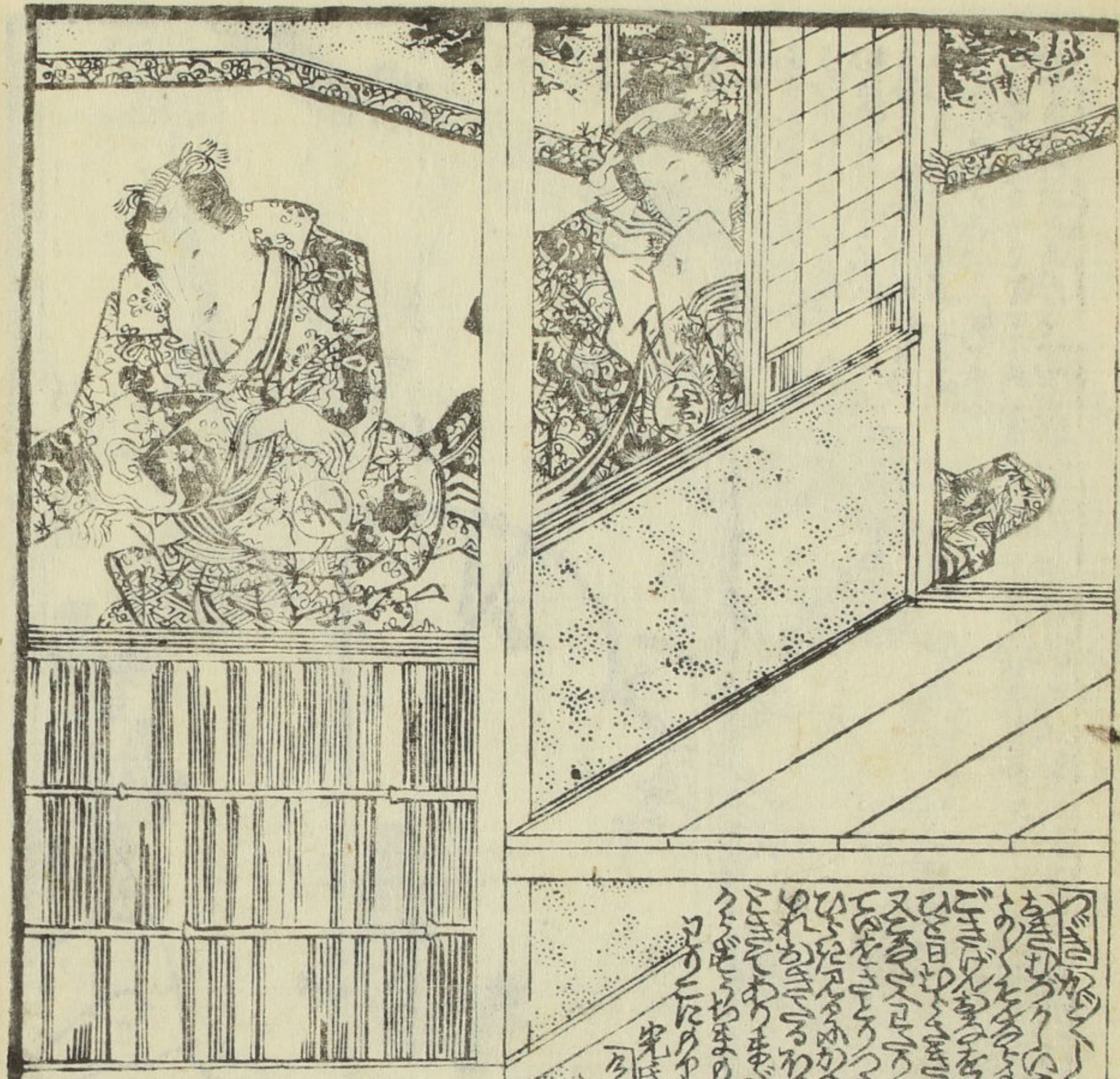
Handwritten Japanese text in vertical columns, located below the illustration of the kneeling woman. The text is written in a cursive style.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located above the illustration of the woman at the table. The text is written in a cursive style.

原式十四編

木部 無 録 兼 回 回

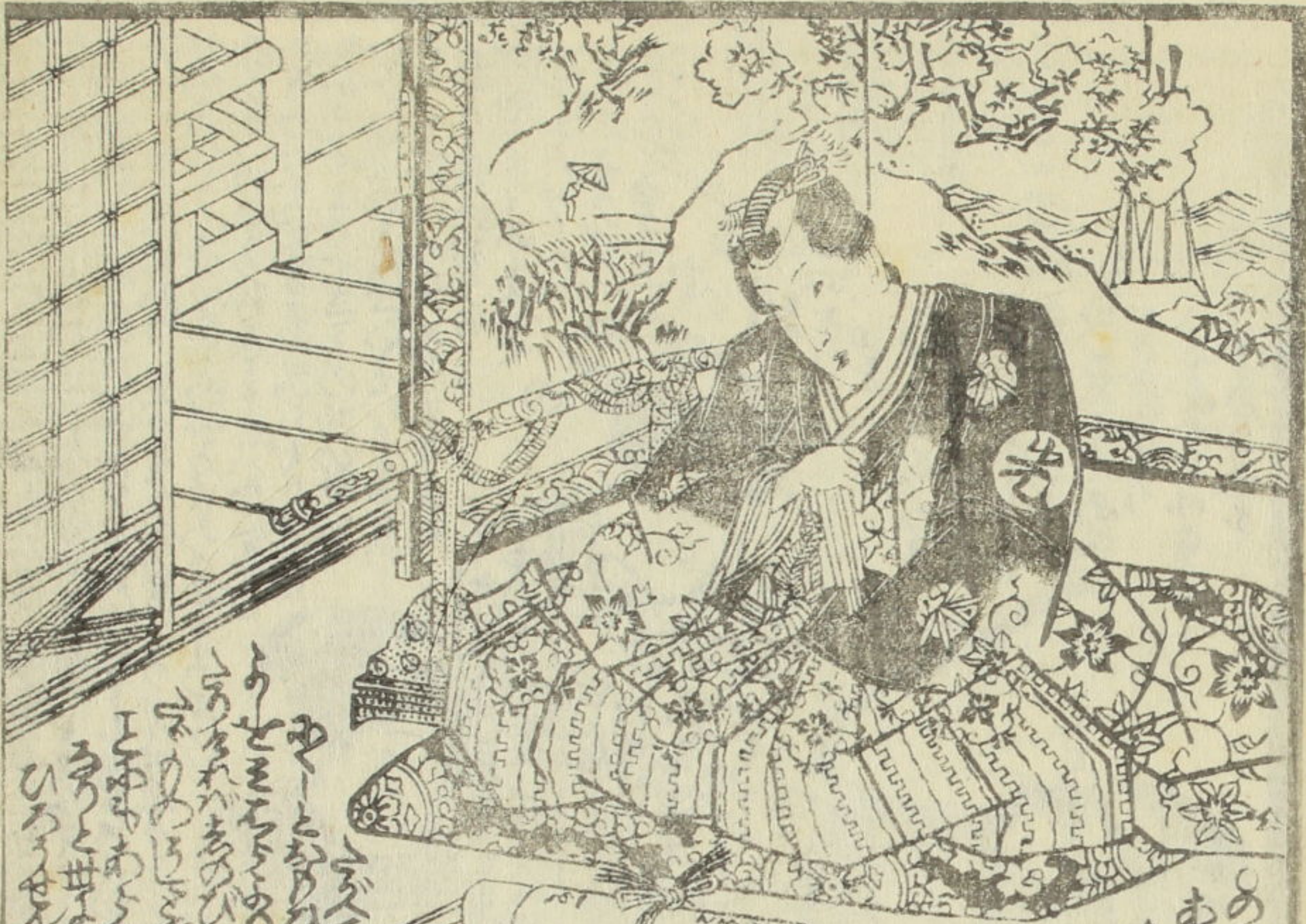
七



Handwritten Japanese text in vertical columns, located to the right of the lantern illustration. The text is written in a cursive style.

源氏一四卷

七



Handwritten text in a cursive script, likely a diary entry or a letter, positioned to the left of the woman's illustration.

Handwritten text in a cursive script, positioned below the woman's illustration and above the table.



Handwritten text in a cursive script, positioned below the woman's face illustration.

Vertical text on the left margin of the page, possibly a chapter or section title.

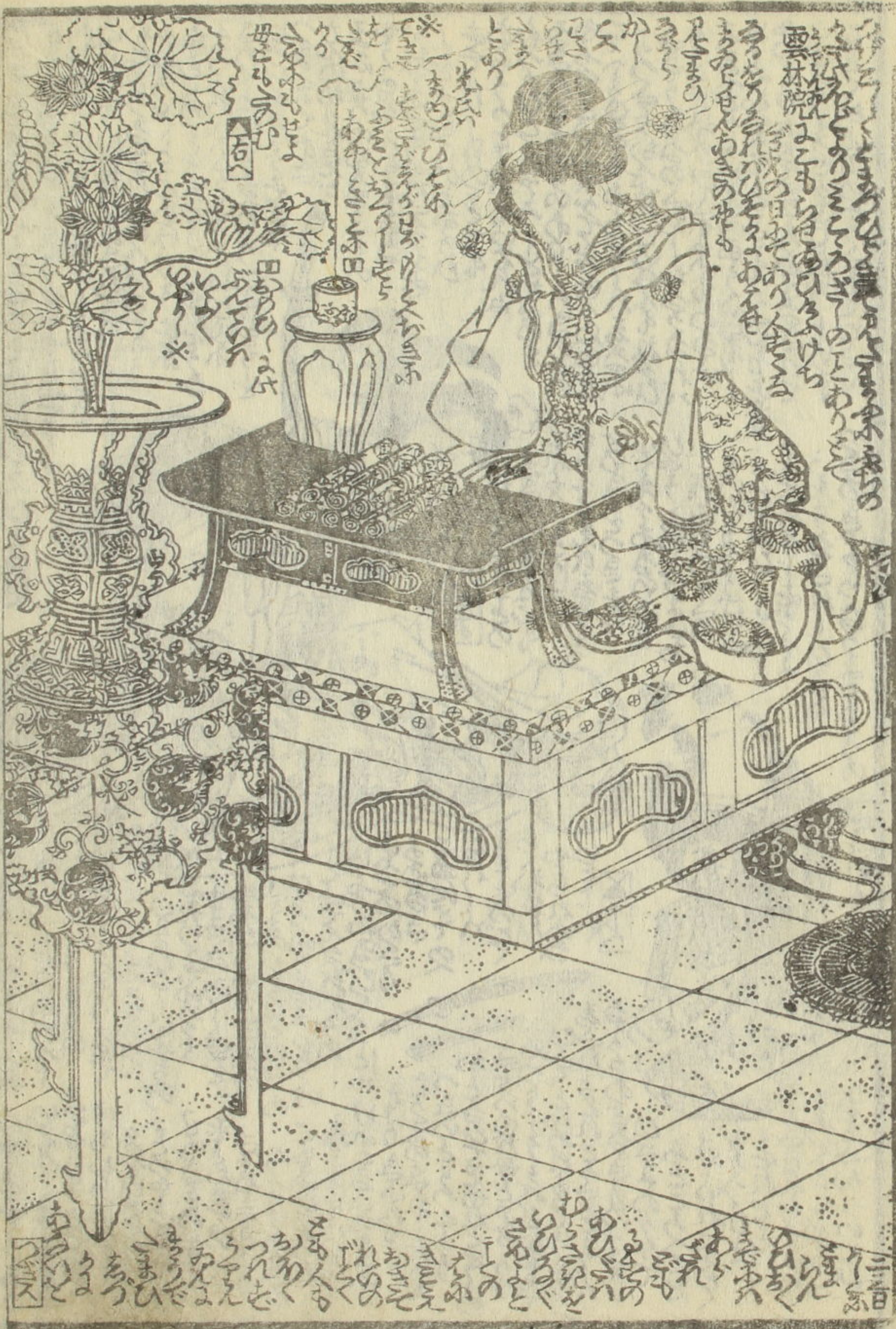


Handwritten text in a cursive script, positioned at the top of the page above the woman's illustration.

Handwritten text in a cursive script, positioned to the left of the woman's illustration.

Handwritten text in a cursive script, positioned below the woman's illustration and around the table.

Vertical text on the right margin of the page.



原氏十四編



Illustration of two figures in traditional Japanese attire. The upper figure is seated and holds a long object, possibly a sword or staff. The lower figure is also seated, facing the upper figure. The background includes a large, patterned circular object and a smaller rectangular object. The text is written in vertical columns around the illustration.

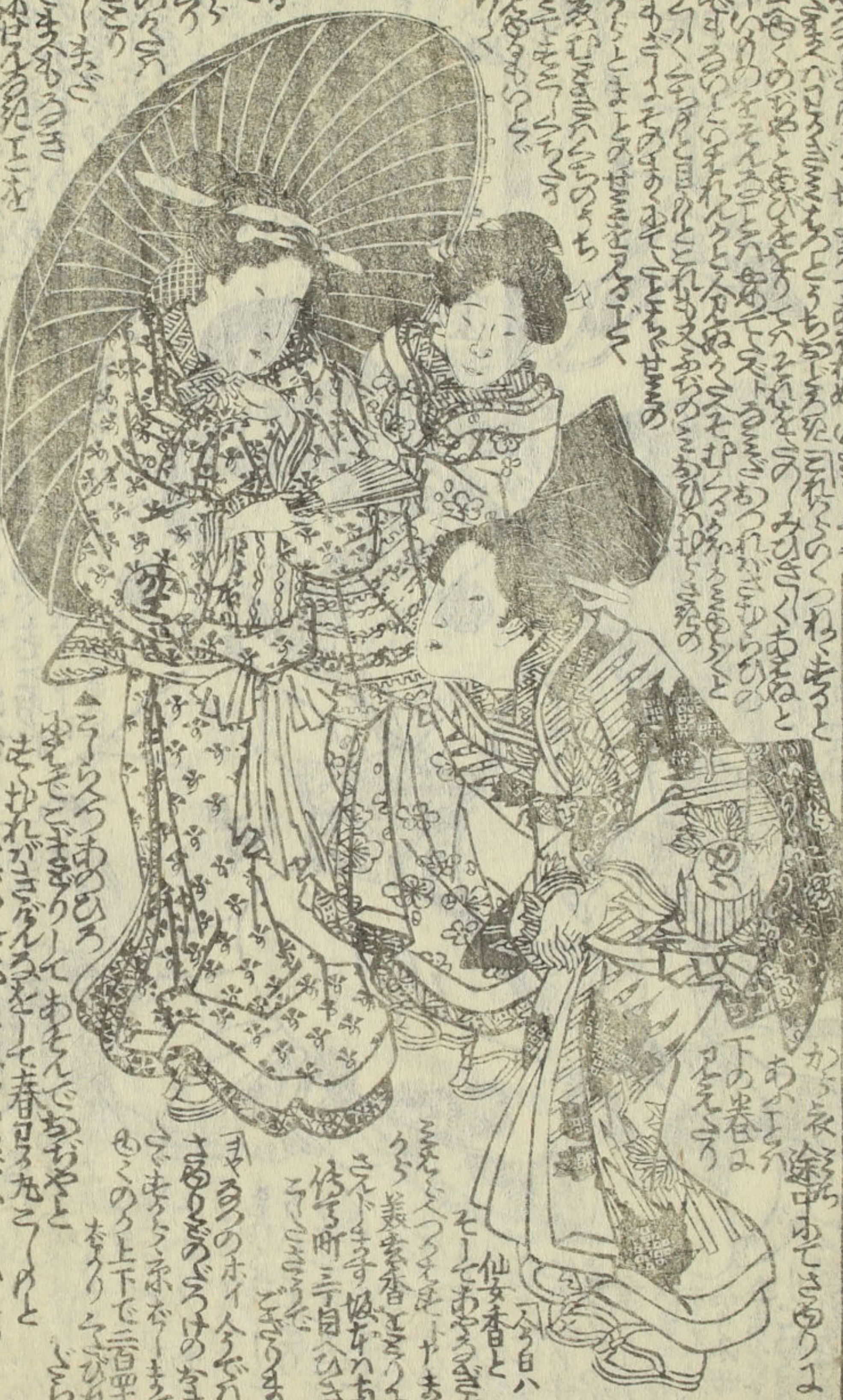
Illustration of two figures in traditional Japanese attire. The upper figure is seated and holds a long object, possibly a sword or staff. The lower figure is also seated, facing the upper figure. The background includes a large, patterned circular object and a smaller rectangular object. The text is written in vertical columns around the illustration.

Illustration of a figure in traditional Japanese attire, seated and facing right. The figure wears a kimono with a circular emblem. The background shows a simple architectural structure with a grid pattern. The text is written in vertical columns around the illustration.

Illustration of a figure in traditional Japanese attire, seated and facing right. The figure wears a kimono with a circular emblem. The background shows a simple architectural structure with a grid pattern. The text is written in vertical columns around the illustration.

國貞画種彦作

此書は古今東西の名人の肖像を収めたもので、その筆致は極めて洗練されており、人物の神態もよく表現されている。特に源氏物語の人物の描写は、その優雅さと美しさをよく捉えている。また、背景の装飾も非常に細かく描かれており、全体的に一種の上品な雰囲気を醸成している。



この挿絵は、源氏物語の一場面を表現していると思われる。中心の女性は、源氏物語の主要人物の一人である。彼女の衣装は、当時の貴族階級の女性たちが着用していたものと一致している。また、周囲の人物も、それぞれの特徴的な装束を身にまとい、物語の世界観をよく再現している。

龍澤皇民著

迎福南鏡録

一名相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊 繪入 平假名附 近刻

女消息往来

画入全一冊

曆日講釋

俳諧今四歌仙

全一冊

此書は、龍澤皇民が著したもので、内容は非常に興味深い。特に「迎福南鏡録」は、当時の生活様式や習慣を詳しく紹介しており、現代の研究者にとって貴重な資料となっている。

「雅俗百傳奇」は、様々な逸話や伝説を収録しており、その面白さから多くの人々に愛読されている。また、「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。

「曆日講釋」は、暦の解説だけでなく、その背後にある文化や習俗についても詳しく説明している。これは、一般の人々だけでなく、学問の分野でも重要な参考書となっている。

「俳諧今四歌仙」は、現代の俳諧詩人を紹介し、その作品を分析している。これは、俳諧の歴史や発展を理解するための重要な資料である。

「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。また、「雅俗百傳奇」は、様々な逸話や伝説を収録しており、その面白さから多くの人々に愛読されている。

「迎福南鏡録」は、当時の生活様式や習慣を詳しく紹介しており、現代の研究者にとって貴重な資料となっている。また、「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。

「曆日講釋」は、暦の解説だけでなく、その背後にある文化や習俗についても詳しく説明している。これは、一般の人々だけでなく、学問の分野でも重要な参考書となっている。

「俳諧今四歌仙」は、現代の俳諧詩人を紹介し、その作品を分析している。これは、俳諧の歴史や発展を理解するための重要な資料である。

「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。また、「雅俗百傳奇」は、様々な逸話や伝説を収録しており、その面白さから多くの人々に愛読されている。

「迎福南鏡録」は、当時の生活様式や習慣を詳しく紹介しており、現代の研究者にとって貴重な資料となっている。また、「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。

「曆日講釋」は、暦の解説だけでなく、その背後にある文化や習俗についても詳しく説明している。これは、一般の人々だけでなく、学問の分野でも重要な参考書となっている。

「俳諧今四歌仙」は、現代の俳諧詩人を紹介し、その作品を分析している。これは、俳諧の歴史や発展を理解するための重要な資料である。

「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。また、「雅俗百傳奇」は、様々な逸話や伝説を収録しており、その面白さから多くの人々に愛読されている。

「迎福南鏡録」は、当時の生活様式や習慣を詳しく紹介しており、現代の研究者にとって貴重な資料となっている。また、「女消息往来」は、女性たちの生活や感情を描いたもので、当時の女性文化を知る上で重要な一冊である。

大草書心書文

此書の心は、書道の源流を探究し、筆の運びや墨の濃淡を詳細に記述している。全三冊、高井蘭山述。

消息往来詳註 全一冊
 消息往来本世より約三百年前、初学の人への解り易い手紙の模範として、書かれた。高井蘭山述。

消息往来本世より約三百年前、初学の人への解り易い手紙の模範として、書かれた。高井蘭山述。

合則 壽福三世相大鑑全冊
 合則、壽福三世相大鑑、全冊。書道の歴史を記述している。

合則 壽福三世相大鑑全冊
 合則、壽福三世相大鑑、全冊。書道の歴史を記述している。

合則 壽福三世相大鑑全冊
 合則、壽福三世相大鑑、全冊。書道の歴史を記述している。

合則 壽福三世相大鑑全冊
 合則、壽福三世相大鑑、全冊。書道の歴史を記述している。

合則 壽福三世相大鑑全冊
 合則、壽福三世相大鑑、全冊。書道の歴史を記述している。

合則 壽福三世相大鑑全冊
 合則、壽福三世相大鑑、全冊。書道の歴史を記述している。

隅田川西岸 賢北齋筆 全三冊
 賢北齋の書道作品集。全三冊。

江戸名所 東鑑 蕙齋筆 全三冊
 蕙齋の江戸名所東鑑。全三冊。

江戸名所 物見 任清 長筆 全二冊
 任清の江戸名所物見。全二冊。

東海道 花の都路 狂歌 全三冊
 花の都路狂歌。全三冊。

戯場頭 微鏡 黙漢 隱作 全二冊
 微鏡黙漢。全二冊。

右五通 共格 上品 凡七 書勢 凡七
 右五通共格上品凡七。全七冊。

右五通 共格 上品 凡七 書勢 凡七
 右五通共格上品凡七。全七冊。

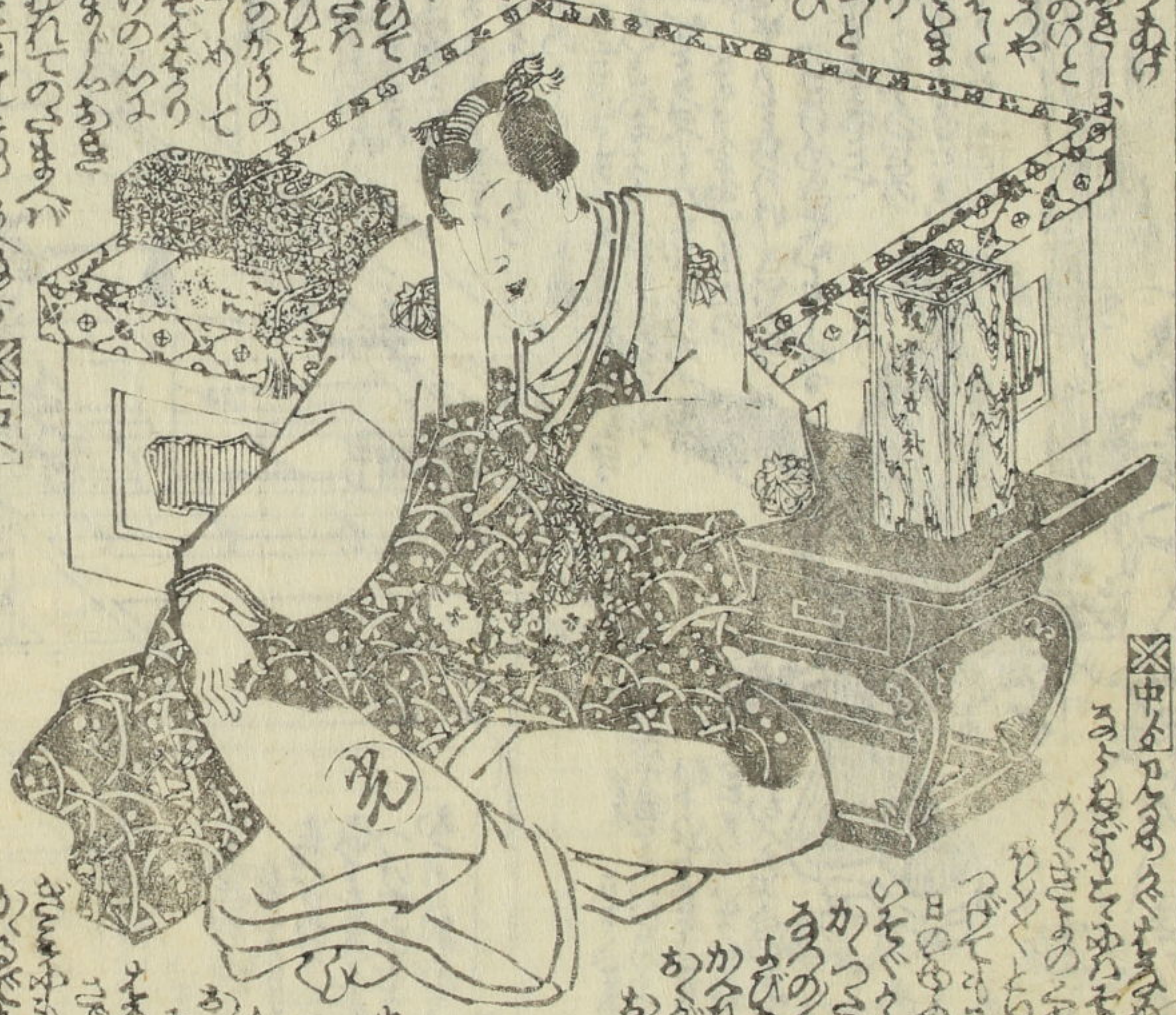


おのころの春の日のちぎりのあかき
 わろくの人をまゐりてさしよみまげと
 かねてはなれぬとて
 おのころの春の日のちぎりのあかき
 わろくの人をまゐりてさしよみまげと
 かねてはなれぬとて

あはれ文字と真草二體ふまふ
 をうゑ又字義ふまふがひ
 されば子休元さうの拜を
 くれれば元さうの拜を



江戸十景の第一は、
芝居の賑わいである。
芝居の町は、朝早くから
賑わい始める。芝居の
町は、芝居の町である。
芝居の町は、芝居の町
である。芝居の町は、
芝居の町である。芝居
の町は、芝居の町であ
る。芝居の町は、芝居
の町である。芝居の町
は、芝居の町である。

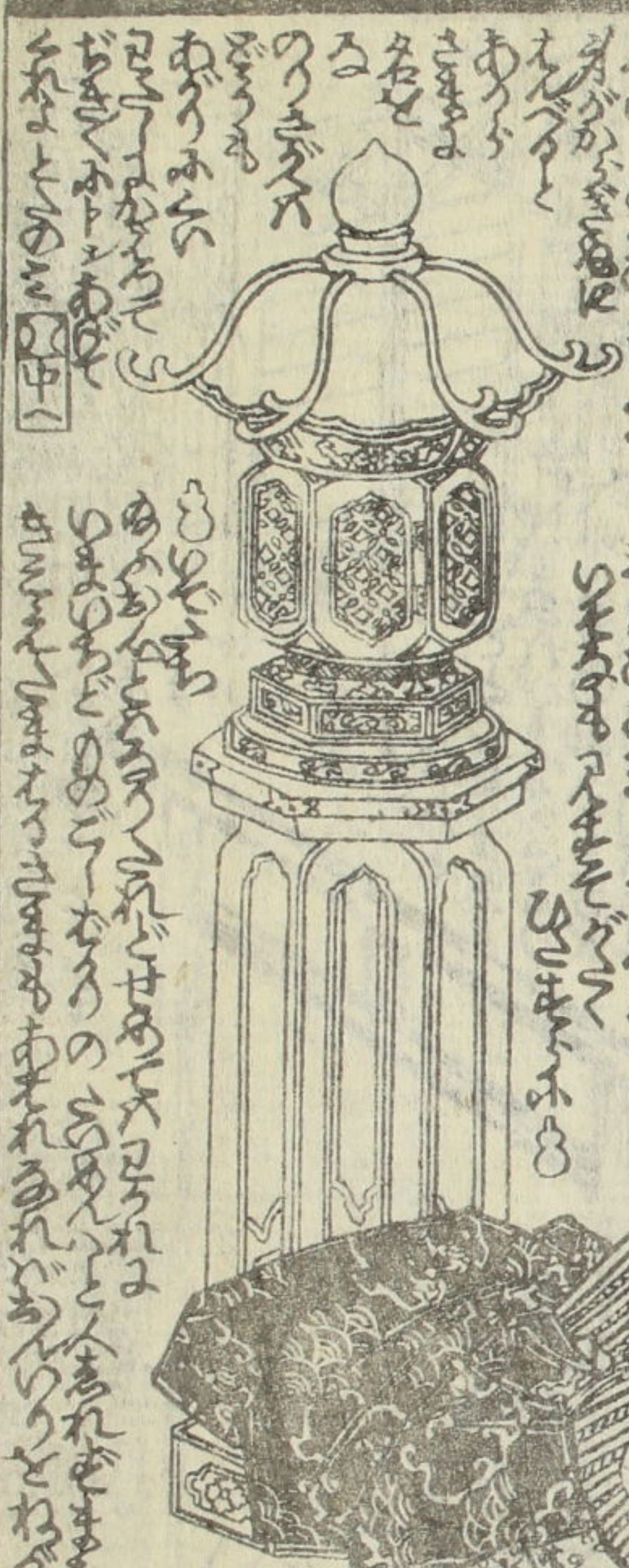


中々、芝居の町は、
賑わい始める。芝居の
町は、芝居の町である。
芝居の町は、芝居の町
である。芝居の町は、
芝居の町である。芝居
の町は、芝居の町であ
る。芝居の町は、芝居
の町である。芝居の町
は、芝居の町である。

江戸十景の第二は、
芝居の賑わいである。
芝居の町は、朝早くから
賑わい始める。芝居の
町は、芝居の町である。
芝居の町は、芝居の町
である。芝居の町は、
芝居の町である。芝居
の町は、芝居の町であ
る。芝居の町は、芝居
の町である。芝居の町
は、芝居の町である。

芝居の町は、芝居の町
である。芝居の町は、
芝居の町である。芝居
の町は、芝居の町であ
る。芝居の町は、芝居
の町である。芝居の町
は、芝居の町である。

芝居の町は、芝居の町
である。芝居の町は、
芝居の町である。芝居
の町は、芝居の町であ
る。芝居の町は、芝居
の町である。芝居の町
は、芝居の町である。



三歌在木本校輯
芳州集全冊
開國八州を以て初編
同輯
紫蘭集全冊
追記
刻

歡童遊言画手本一名鳥羽繪早まひ出来

廣益懷中早割大全
小本
前編出来
後編嗣刻

新形深移目
前北齋爲筆
後編嗣刻

芝居似顔早替古後編
全冊五渡亭國貞画

八文字自笑評
三箇之津
藝品定
役者評判記
全冊
即考百籤
全一冊

柳亭種彦作繪草紙三種
自問戲言句合
歌川國芳狂画
浮浪さりり
歌川貞秀画

柳亭種彦作繪草紙三種

自問戲言句合 二冊
歌川國芳狂画
浮浪さりり 六冊
歌川貞秀画

種彦校合
枕琴夢之通路
歌川貞秀画
上州機華綾織
六冊
井筒の莚子
紫房紋笥箱
六冊
八百屋の娘
歌川貞秀画

種彦校合
昔心ほきち免さんく 三冊
昔かー狂浦島ぢい 三冊
茶番のいろは 二冊

種彦校合
枕琴夢之通路
歌川貞秀画
上州機華綾織
六冊
井筒の莚子
紫房紋笥箱
六冊
八百屋の娘
歌川貞秀画

種彦校合
昔心ほきち免さんく 三冊
昔かー狂浦島ぢい 三冊
茶番のいろは 二冊

美艶仙女香翠翁
仙女香場
南信馬町
坂本氏
黒油美玄香翠翁
坂本氏



書物錦繪 江戸通油町
團扇地紙 問屋鶴屋晋右衛門

